



創立151年

# わにっこり

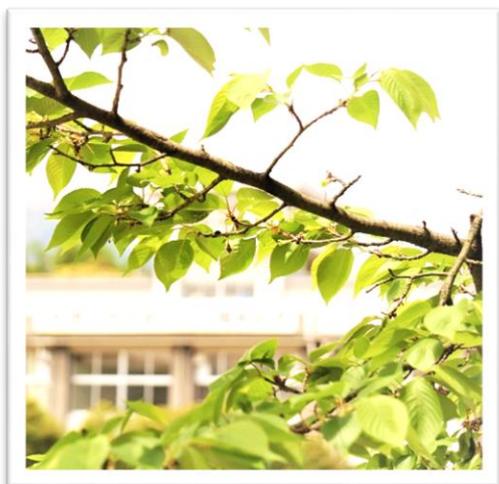
教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子

和邇小だより 令和6年 5月号

児童数378名 文責 澤村幸夫



## 5月 協働と信頼



桜の花が満開の中、新年度が始まりましたが、はや新緑の季節となりました。落葉樹は、秋に葉を落とす際、そのまま葉を落とさず、葉緑体を分解してミネラルなどの栄養分にして枝や幹に戻してから葉を落とします。分解される中で黄色の色素が残ったり赤色の色素が作り出されたりすることで、あの鮮やかな紅葉が見られます。そして、春に新しい葉をつける際は、逆に枝や幹から葉に栄養分が供給されて葉緑体が形成されます。若い葉は、葉緑体の緑色の色素の量が少なく、緑色が薄いことから透明感があり、より鮮やかな黄緑色になります。気温が高くなっていく新緑の季節、人間とは違って、大地に根を張って移動できないからこそ季節の変化に適応している木の生き方に想いを馳せてみるのも面白いと思います。

さて、学校では、新年度の教育計画に基づいた授業が始まっています。その目的は、「グローバル化の進展や AI 技術の発展など、変化が著しく予測困難な世の中で、自ら課題を解決し、たくましく生きる力を子どもたちに培う」ことにあります。目的を実現するためには、学校が目指す教育内容を保護者、地域の皆様、学校を取り巻く関係機関などと共有し、「協働」して実現を図る「社会に開かれた教育課程」が不可欠です。学校運営協議会に代表されるコミュニティスクールは、まさに「協働」を意図した活動です。そして、実現のためには、何より「信頼」される学校であらねばなりません。その「信頼」とは、子どもたちの幸せの追求、つまり「子どものウェルビーイング」の確立であると考えています。

本校では、教育目標の具体的な取り組みとして「わ(わたしから考える)【主体性】」「に(にこにこ元気な)【健康】」「つ(つづけてがんばる)【粘り強く】」「こ(こころを合わせる)【協働】」和邇小学校の教育を実践しています。それらは、子どもたちが将来、社会や世界と関わり、より良い人生を送るための素地創りとなります。具体的には、全教育活動での「主体的・対話的で深い学びの推進」、道徳教育など心の教育の推進、本物に触れる体験学習の充実、地域ボランティア(ゲストティーチャー)による指導に取り組んでいます。毎週水曜日の「魔法の部屋」では、教職員による子どもの心を耕す話を給食の時間に実施します。校外活動の表彰も、子どもの自尊感情を高め、本校の教育目標達成のために行うものです。子どもたちが地域の行事や祭りに参加していくことも重要であると考えています。

これら1つ1つの教育活動が、いっそうの教育効果を発揮することができるよう、今後とも目的の共有を図り、「計画、説明、実践、評価、改善」に努めて参ります。



学校のカージナルテトラ  
本文との関連はありません。

# 今月の 人権の日

和邇小学校では、毎月1回、全校で同じテーマを考える「人権の日」があります。

「人権」という言葉を聞くと、何か難しいことのように感じるかもしれませんが、「私たちの生活のすべて」が「人権」なのです。食べて寝て、遊んで勉強して、そして誰もが「自分らしく」幸せに生きていく、あたりまえのことを意味します。ここで大切なのは「誰もが」ということです。「自分が」だけでなく「すべての人が」ということです。



人権の日は、自分のこと、友だちのこと、家族のことや社会のことなどを考える時間です。自分のことを振り返ったり、周囲の友だちのことを考えたりします。放送を聞いて考えたり、ビデオを観て、自分はどのようにいったら良いか、クラスで話し合ったり、言葉に表現したりします。「こんな時、相手はどう思うだろう」「相手の立場だったら、どうしていただろう」と想像する力も必要です。毎月のテーマはそれぞれ違いますが、「相手の痛みが分かる」「人の立場に立って行動することができる」子どもを目指して継続していきたいと思います。



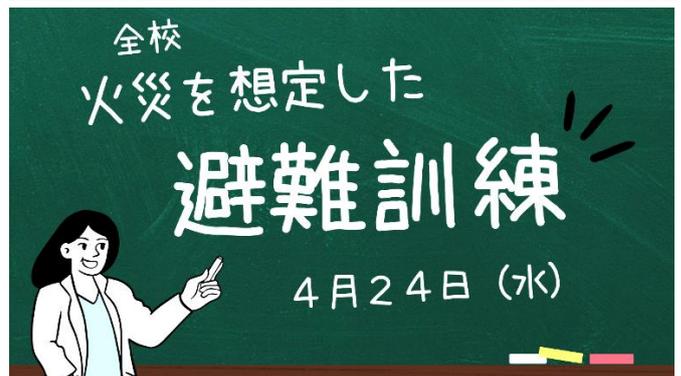
和邇小学校の  
ホームページ

和邇小学校のホームページをご覧ください。子どもたちの様子を掲載しています。

学校日より「わにっこり」のカラー版は、和邇小学校のホームページから「**学校便り**」をクリックしてください。また、「**校長室より**」を開設しましたので、ご覧ください。

## お知らせ（保護者や地域の皆様へ）

学校では、子どもたちの自己肯定感を高めるために、「校外活動で表彰などを受けた場合に、給食の時間に全校に紹介する伝達表彰の取組」を行っています。スポ少やクラブチーム、習い事、文化活動、資格などで表彰などを受けた児童がいましたら、団体でも個人でも、また賞の大小は問いませんので、学校までお知らせください。（賞状や証書、トロフィーなどを持ってきてください。）自薦・他薦は問いません。期間は、今年度（令和6年4月以降3月まで）です。和邇小学校の子どもたちの学校外での取組や頑張りを、広く全校児童にお知らせすることで、互いに認め合い、支え合える関係をつくり、また、励みにつながればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



4月24日（水）に全校避難訓練を実施しました。年間3回実施しますが、今回のめあては、避難経路の確認と「お・は・し・も・て」の基本行動を確認し身につけることです。1年生から6年生まで、「命を守る大切さ」を理解し、素早く真剣に行動することができました。

火災に限らず、土砂災害、豪雨災害、地震や台風・落雷など、今後起こりうる非常事態に備え、準備しておくことが重要です。災害はいつ起こるか分かりません。各ご家庭でも、いざという時の行動や約束について親子で確認をお願いします。

カクレクマノミの産卵

ここを  
クリック

期間限定 5/1~12/31

学校のカクレクマノミが産卵し、稚魚が増えています。動画にまとめましたので、ご覧ください。

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ情報を掲載したいと考えています。子どもは「地域の宝」です。未来をたくましく生きる子どもたちにつけてほしい本当の力とはいったい何か、子どもが生涯にわたり幸せに生きていくには、周囲の大人（親や教師）はどんな関わりを大切にしていけば良いのかについて、共に考えていきたいと思います。



学校のレッドビーシュリンプ  
本文との関連はありません。

第2弾は「自己肯定感」です。自己肯定感とは、自分に欠点があっても「わたしのままで OK」と信じられる気持ちのことです。子どものほうが、大人よりも、自己肯定感が高く育ちやすいと言われていますが、思春期を過ぎても、大人になっても遅すぎることはありません。

内閣府の調査によると、「自分自身に満足している」と答えた13歳から29歳の日本の若者の割合は46%で、半数にも満たない結果でした。この数字は、諸外国（韓国、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、スウェーデン）の中で最下位でした。諸外国はいずれも約70~90%だったことを考えると、日本の若者が、かなり自己肯定感が低い状況にあることは明らかです。さらに、「自分には長所がある」「うまくいかわからないことにも意欲的に取り組む」「社会を変えられるかもしれない」といった項目も7か国で最下位でした。

このような結果から、私たち大人が学ぶべきことは、「今の若者には夢や希望がない」と嘆くことではありません。学校教育を含め、私たち親世代が今まで教わってきたこと、やってきたことが本当に子どもたちにとって良かったのかどうか、を再考していくことだと思います。目の前の子どもたちが大人になるころには、さらにグローバル化が加速して、日常生活をはじめ、職場や地域の中で、海外の人と生活することが増えると思います。その時に、「自分には長所がある」や「うまくいかないことにも意欲的に取り組む」と答えた子どもの率が低い日本人は、どうなっていくのでしょうか。

自己肯定感という言葉は、ここ数年でかなり一般的になりました。子育て中のお父さんやお母さんから「うちの子は自己肯定感が低いのです」という悩みを聞くこともあります。自己肯定感が高い子はいつでも前向きで、自分のことが大好き、だから失敗しても気にしないし悩んだりしない、といった誤った認識をもっているケースがあるように思います。いつも前向きで元気な子を見た時「あの子は自己肯定感が高い」と感じたり、いつももの静かで、じっくりものごとを考える子、目立たない子に対して「あの子は自己肯定感が低い」と感じたりしたことはないでしょうか。

自己肯定感が高いことと、ポジティブになることは同じではありません。陽気で明るくて目立つ子どもの自己肯定感が低いこともあれば、もの静かでおとなしくて目立たない子どもの自己肯定感が高いこともあります。

ものごとをポジティブに捉えることはすばらしいことだと思いますが、それにとらわれすぎると、ひずみができてしまいます。前号でも伝えたように、人間の思考は「ネガティブ」が優位になっています。それは進化の過程で命を守る必要があったからです。心理学の研究によると、人間は1日に6万回の思考を行っているそうですが、その約80%がネガティブ思考であることが分かっています。8時間の睡眠時間があると計算して3秒に2回はネガティブな考えがよぎっていることとなります。したがって、「ネガティブ」な思考は、まったく問題ではありません。むしろ必要なのです。

「わたしはわたしのままでいい」「わたしはわたしのままで幸せになる価値がある」「ダメな部分があってもいい」「欠点があっても、大丈夫!」「いつもポジティブになれなくてもいい」と、自分を丸ごと受け入れて「これが自分なのだ」と自分に OK を出して、幸せになろうとする源の感情を、学校と家庭が手を携えて育てていきたいと思います。



学校のフルホワイトグッピー  
本文との関連はありません。